

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	三重大学
設置者名	国立大学法人三重大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計			
人文学部	文化学科	夜・通信	148	1	22	160	13		
	法律経済学科	夜・通信			58	206	13		
教育学部	学校教育教員養成課程	夜・通信			336	484	13		
医学部	医学科	夜・通信			53	201	19		
	看護学科	夜・通信			65	213	13		
工学部	総合工学科	夜・通信			164	313	13		
	機械工学科	夜・通信			27	176	13		
	電気電子工学科	夜・通信			39	188	13		
	分子素材工学科	夜・通信			25	174	13		
	建築学科	夜・通信			48	197	13		
	情報工学科	夜・通信			10	159	13		
	物理工学科	夜・通信			15	164	13		
生物資源学部	資源循環学科	夜・通信			10	38	196	13	
	共生環境学科	夜・通信				31	189	13	
	生物圏生命化学科	夜・通信	26	184		13			
	海洋生物資源学科	夜・通信	33	191		13			

	生物圏生命科学科	夜・通信			26	184	13	
(備考) 工学部の各学科 (総合工学科を除く) (H31.4), 生物資源学部生物圏生命科学科については, (H29.4) より学生募集停止								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

URL: <https://syllabus.mie-u.ac.jp/syllabus/help/jitumukaitiran.pdf>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	三重大学
設置者名	国立大学法人三重大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<http://www.mie-u.ac.jp/profile/guide/officer.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社光機械製作所代表取締役社長	2021.4.1 ～ 2023.3.31	地域創生
非常勤	事業構想大学院大学 学長	2021.4.1 ～ 2023.3.31	広報・ブランディング
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	三重大学
設置者名	国立大学法人三重大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) シラバスの中では、各授業科目の到達目標、授業の内容、授業計画及び評価方法を示し、毎年3月下旬頃に次年度のシラバスをホームページ上で掲載している。シラバスの作成にあたっては、受講生の視点に立って、検討すべき内容や留意点を「三重大学ウェブシラバス作成の手引き」にまとめ、この手引きに基づいて授業の目的、到達目標、成績評価等に一貫性と整合性を保つと共に、全学で統一したルールを定めている。	
授業計画書の公表方法	https://syllabus.mie-u.ac.jp/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) シラバスにおいて、評価方法を示すと共に、成績評価ガイドラインや成績評価に対する評価ガイドライン等各種成績評価に係る規則等を定めており、大学教育としての実質化及び水準の確保に努めている。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 本学では、成績評価の客観的な指標として、GPA(履修登録した単位数を基準)を設定しており、成績公表時に指導教員が、学生と面談した上でGPAに基づいた修学指導や学習についての相談を行っている。 また、同一の授業科目を受講した学生又は同一入学年度かつ同一学科で、クラスを定義し、当該クラスの学生が修得したGPの平均を算出し、複数の観点からの成績の分布状況の把握に努めている。	

G P A の計算方法

G P A = (授業科目の単位数×評点) の和 ÷ 履修した授業科目の総単位数

- 授業科目は、卒業要件に算入できる授業科目をG P A の算出対象とする
- 各評点の評価内容基準

評点 (grade point)	評定	評価点	100点 参照値	評価内容基準	判定
評点 4	AA	10	95~100	科目内容を修得し、到達目標に優れて満たしている	合格
		9	90~94		
評定 3	A	8	80~89	科目内容を修得し、到達目標を十分満たしている	
評点 2	B	7	70~79	科目内容を修得し、到達目標を概ね満たしている	
評点 1	C	6	60~69	科目内容を修得し、到達目標をある程度満たしている	
評点 0	D	0~5	0~59	科目内容を修得したと認められず、到達目標を満たしていない	不合格

客観的な指標の算出方法の公表方法 <http://www.mie-u.ac.jp/students/classwork/Seiseki-GPA.html>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

三重大大学の学位授与の方針

幅広い教養の基盤に立った高度な専門知識や技術を有し、地域のイノベーションを推進できる人材を育成するために、「4つの力」、すなわち「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、それらを総合した「生きる力」を養成します。

各学部・各研究科は、「4つの力」の養成をその専門性に適合させることによりより詳細な目標を設定し、厳格な成績評価に基づいて学位を授与します。

なお、4つの力は、以下の12の要素で構成されます。

- 「感じる力」：感性、共感、主体性
- 「考える力」：幅広い教養、専門知識・技術、論理的・批判的思考力
- 「コミュニケーション力」：表現力（発表・討論・対話）、リーダーシップ・フォロワーシップ、実践外国語力
- 「生きる力」：問題発見・解決力、心身の健康に対する意識、社会人としての態度・倫理観

各学部等の卒業の認定方針

人文学部

文化学科

1. 人文科学の諸分野の専門的知識と豊かな教養を身につけている。
2. 変動激しい現代社会・地域社会について、専門的知識に基づいて論理的に考え、総合的に判断できる。
3. 人文科学諸分野の成果に基づき、世界各地の固有の文化に関して、広い視野から探究できる。
4. 変動激しい現代社会・地域社会に対する理解を基盤として、国際感覚に基づいて行動できる。
5. 自ら学んだ知を、口頭表現や文章表現によつて的確に発信することができる。
6. 国際社会と地域社会の一員という自覚をもち、その発展に貢献できる。

法律経済学科

1. 法律・政治・経済・経営の諸分野において、専門的知識と豊かな教養を身につけている。
2. 現代社会・地域社会について、専門的知識に基づいて論理的に考え、総合的に判断できる。
3. 法律・政治・経済・経営の諸分野を広く学び、学際的視点で問題を探究できる。
4. 現代社会・地域社会の課題に挑戦する積極性を備える。
5. 自ら学んだ知を的確に発信し、国際社会と地域社会の一員という自覚をもち、その発展に貢献できる。

教育学部

三重大学教育学部は、学校現場における諸課題に対応できる実践的指導力を身につけた地域に貢献しうる教育人材を育成します。

教育学部は、次のような資質・能力を備えた人に対して、厳格な評価基準に基づいて学位を授与します。

・「感じる力」

教員に求められる使命や責任を理解し、幼児や児童生徒の心身の成長を支えることができる。

・「考える力」

教育に関する専門的な知識や技能に基づいて学級等を経営するとともに、授業等を計画・実践し、さらなる改善策を考え示すことができる。また、教育をめぐる諸課題を把握し、解決策を考え示すことができる。

・「コミュニケーション力」

子どもの多様性を認め、一人ひとりに配慮した教育を行うことができる。また、同僚、保護者、地域の人々と協働しながら諸課題の解決に取り組むことができる。

・「生きる力」

社会人としての教養や公正な態度、柔軟な思考を身につけ、地域社会の動向を踏まえながら、責任ある行動をとることができる。また、自己研鑽の必要性を理解し、主体的・自律的に学び続ける意欲や態度を有している。

医学部

医学科

医学科では、次の能力と資質を備えた人物に学位を授与する。

(1) 「知識」

- ・ 医療実践に必要な医学・医療の知識を修得している。
- ・ 社会人と医療人に求められる豊かな知識と教養を有している。

- ・ 地域と国際社会で求められる保健・医療・福祉を理解している。
- (2)「技能」
 - ・ 患者の身体的、ならびに社会心理的状況を科学的、統合的に評価し、全人的医療を実践できる。
 - ・ 医学・医療の国際化に対応できる「語学力」「自己表現力」「多文化理解力」を有している。
 - ・ 医療チームに必要な「コミュニケーション力」「リーダーシップ」「協調性」を理解し、多職種連携によるチーム医療に参加することができる。
- (3)「態度」
 - ・ 豊かな人間性と高い倫理観を持って行動できる。
 - ・ 科学的根拠に基づいて考え、判断することができる。
 - ・ 地域医療の実践に必要な使命感と責任感を有している。
 - ・ 生涯を通して自らを高めていく態度と医科学の進歩を追求する研究心を持っている。

看護学科

1. 人々がより健康にその人らしく生きるために、看護職として人の尊厳と生命を尊重して行動することができる。
2. 看護学の観点から人間を総合的に理解し、良質で安全な看護を実践するための基本的知識と技能を身につけている。
3. 科学的根拠を踏まえて看護に関する課題を発見し、論理的・批判的思考により課題を解決することができる。
4. 人々との相互関係を成立・発展させるために、豊かな感性を備えたコミュニケーション能力を身につけ、対話や討論の場において発揮することができる。
5. 保健医療福祉システムの中で看護の専門性を発揮し、多職種連携における役割を担うための基盤となるリーダーシップ・フォロワーシップを身につけている。
6. 国際社会や地域社会における健康問題や社会の変化などの動向を視野に入れながら、看護に求められる役割を見出すことができる。
7. 看護の課題を探究し、看護学の発展につながる研究的態度を身につけている。
8. 専門職として看護の質の向上を常に目指し、自己評価と他者評価をもとに看護実践を省察し、自律的に生涯学び続けようとする態度を身につけている。

工学部

本学に4年以上在学して所定の単位修得を充たし、以下の能力を備えている人に対して、卒業を認定して学位、学士（工学）を授与します。

1. 多面的思考能力：幅広い教養とそれに基づく多面的思考能力を身につけている
2. 深い専門知識：専門技術者として必要な工学に関する幅広い専門知識を身につけている
3. 高度なコミュニケーション力：国内外で活躍する人材としてのコミュニケーション力を身につけている
4. デザイン能力・ものづくり能力：工学の専門知識を基にした課題解決手法の設計能力、また、専門知識に基づく“ものづくり”を行う実践能力を身につけている
5. 制約下での仕事の推進・統括力：制約下での仕事遂行のための計画能力、実施能力、および他者との協調性やプレゼンテーション能力を身につけている
6. 技術者倫理：技術者に必要な教養と倫理観を身につけている
7. 自主的継続的学習能力：工学に関する分野に関心を持ち、自発的、継続的に学

習することができる

生物資源学部

生物資源学部は、地域に根ざしたグローバルな視点に立ち、自然との共存を図り、生物資源の適正な開発・利用と保全を追求するための基礎的・応用的な科学技術に関する教育・研究成果を生み出すことを目指しています。幅広い講義や実験・実習を通し、独創性と専門性を兼ね備え、自らの力で問題解決ができる知識と能力を身につけた人材の育成を目標に掲げ、以下の能力を総合的に備えている人に学位を授与します。

- (1) 幅広い教養と倫理観、国際感覚を身につけ、豊かな人間性を有している。
- (2) 生命、環境、食料、健康等に関する生物資源学の基本的な知識と技術、経験を有している。
- (3) 科学的で論理的な思考を展開することができ、計画的に問題の解決に取り組むことができる。
- (4) 豊かなコミュニケーション能力を持ち、他者と協力して行動することができる。
- (5) 社会の変化に柔軟かつ自律的に対応し、発展的に生きていくことができる。

卒業要件

卒業要件は、本学に修業年限以上在学し、学部規程で定める授業科目を履修し、所定の単位数を習得するものとする。

卒業判定

各学部の教授会において、学生の卒業判定を行う。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.mie-u.ac.jp/profile/policy/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	三重大学
設置者名	国立大学法人三重大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.mie-u.ac.jp/disclosure/finance.html
収支計算書又は損益計算書	http://www.mie-u.ac.jp/disclosure/finance.html
財産目録	—
事業報告書	http://www.mie-u.ac.jp/disclosure/finance.html
監事による監査報告(書)	http://www.mie-u.ac.jp/disclosure/finance.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 年度計画 対象年度: H28~R3)
公表方法: http://www.mie-u.ac.jp/disclosure/3rd-phase-plan.html
中長期計画(名称: 中期計画 対象年度: H28~R3)
公表方法: http://www.mie-u.ac.jp/disclosure/3rd-phase-plan.html

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: http://www.mie-u.ac.jp/profile/check/3rd-phase-report.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: http://www.mie-u.ac.jp/profile/check/n-evaluation/index.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人文学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.mie-u.ac.jp/disclosure/files/20171227_gakubunomokuteki.pdf)
(概要) 人文学部 人文社会科学の諸分野において学際的、総合的な教育研究を行うことにより、専門的知識と豊かな教養に基づき、広い視野と柔軟な思考力をもった、地域社会や国際社会で活躍できる人材を育成し、地域文化、地域社会の発展に寄与することを目指す。 文化学科 人文科学諸分野の成果に基づき、世界各地域の固有の文化に関して、広い視野から探求し、教育研究を進めることにより、変動激しい現代社会への深い理解と国際感覚に基づいた総合的判断力と行動力をもつ人材を育成し、国際社会と地域社会の発展に貢献することを目的とする。 法律経済学科 法律、政治、経済及び経営の専門知識に立脚しつつ、広い視野で問題を探求する教育研究を行うことにより、公私の領域において、変動する社会の課題に挑戦する積極性を備え、指導性を発揮できる人材を育成し、国際社会と地域社会の発展に貢献することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.mie-u.ac.jp/profile/policy/human.html)
(概要) 文化学科 1. 人文科学の諸分野の専門的知識と豊かな教養を身につけている。 2. 変動激しい現代社会・地域社会について、専門的知識に基づいて論理的に考え、総合的に判断できる。 3. 人文科学諸分野の成果に基づき、世界各地域の固有の文化に関して、広い視野から探究できる。 4. 変動激しい現代社会・地域社会に対する理解を基盤として、国際感覚に基づいて行動できる。 5. 自ら学んだ知を、口頭表現や文章表現によつて的確に発信することができる。 6. 国際社会と地域社会の一員という自覚をもち、その発展に貢献できる。 法律経済学科 1. 法律・政治・経済・経営の諸分野において、専門的知識と豊かな教養を身につけている。 2. 現代社会・地域社会について、専門的知識に基づいて論理的に考え、総合的に判断できる。 3. 法律・政治・経済・経営の諸分野を広く学び、学際的視点で問題を探究できる。 4. 現代社会・地域社会の課題に挑戦する積極性を備える。 5. 自ら学んだ知を的確に発信し、国際社会と地域社会の一員という自覚をもち、その発展に貢献できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.mie-u.ac.jp/profile/policy/human.html>)

(概要)

文化学科

世界諸地域の文化を、哲学、歴史学、考古学、社会学、文化人類学、地誌学、美術史、言語学、文学、図書館・情報学といった学問分野から専門的・総合的に学ぶことのできるカリキュラムを用意しています。

ー 4年間のカリキュラム構成と特徴ー

- 1年生：前期の「地域から考える文化と社会」では地域の文化や社会的問題を学ぶことで専門科目を学ぶ上での問題意識を身につけます。後期の「文化学研究総論」では、文献の読み方、調査・発表の仕方等、大学での学修の方法を学びます。また文化学必修科目（基礎）で、さまざまな学問領域の基礎的な考え方や知識を学んでいきます。1年生の最後には、これから専門的に学んでいく地域を決定します。
- 2年生：前期の「専門PBLセミナーA（地域学セミナー）」で各地域文化に対する幅広い視野を得ながら、地域必修科目では多様な地域文化の諸相を学びます。また文化学必修科目（発展）や後期の「専門PBLセミナーB（文化学セミナー）」では、学問領域ごとのより高度の理論や研究を進めるための方法論などを学修します。2年生の最後には、これから専門的に学んでいく学問領域（指導教員）を決定します。
- 3年生：専門演習（ゼミ）では、これまで学んできた専門的知識や研究方法を活かして、最も関心のある文化事象について研究を深めて行きます。また地域必修科目の学修を継続しながら、自分の研究テーマについて、多角的な視点からの理解を進めます。
- 4年生：指導教員の指導の下に、4年間の学修の集大成として卒業論文を作成します。

法律経済学科

法学・政治学・経済学・経営学といった学問分野を対象にして、皆さんが自分の適性や関心を確認しながら学習できる教育カリキュラムを用意しています。

(4年間のカリキュラム構成と特徴)

- 1年生：広い視野から学び始めつつ基礎の形成を前期に、「地域から考える文化と社会」の受講を通じてこれからの学習の問題意識を形成します。そして、後期から2年生前期にかけて受講する「専門PBLセミナー」では、討論の仕方や意見集約の方法など、大学での勉強の仕方を学びながら、2年生以降に専門としたい分野（コース）を絞り込んでいきます。また、1年生後期からは専門基礎科目も受講します。
- 2年生：コースを決定して、コースの専門科目を中心に法政コース・現代経済コースのいずれかに所属し、法学・政治学・経済学・経営学に関する講義の中から、自分が選択したコースの専門科目を中心に勉強します。
- 3年生：専門演習に所属して、さらに専門科目を専門演習では、これまでに学習してきたなかで最も関心のあるテーマについて、深く掘り下げて勉強します。また、所属する演習に関連する専門科目を中心に勉強します。
- 4年生：卒業研究を通じて4年間の集大成を専門演習の指導教員の指導のもとに、4年間の学習の集大成として卒業論文を作成します。

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.mie-u.ac.jp/profile/policy/human.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>文化学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人間の文化、または、社会の動きやしくみに強い関心・好奇心をもっている人。 ●積極的・人間的に生きるために、人間の文化や社会について深く理解することを望む人。 ●現代社会における諸問題を理解し、解決策を探究しようとする意欲がある人。 ●そのために必要な基礎学力、論理的思考力、読解力、表現力をもつ人。 ●これらの力をさらに高めようとする意欲にあふれる人。 <p>法律経済学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人間の文化、または、社会の動きやしくみに強い関心・好奇心をもっている人。 ●積極的・人間的に生きるために、人間の文化や社会について深く理解することを望む人。 ●現代社会における諸問題を理解し、解決策を探究しようとする意欲がある人。 ●そのために必要な基礎学力、論理的思考力、読解力、表現力をもつ人。 ●これらの力をさらに高めようとする意欲にあふれる人。

<p>学部等名 教育学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法： https://www.mie.ac.jp/disclosure/files/20171227_gakubunomokuteki.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>教育学部は、教育に関する学識と専門的素養を身につけるための幅広いカリキュラムを通じ、人間の発達と教育に関する深い理解を基礎とし、教科と教職に関する専門の教育・研究を行うことで、適切な判断力、十分な実践的指導力、豊かな創造性を備えた質の高い教員を養成することによって、地域社会・国際社会の教育・文化の発展に貢献することを目的とする。</p> <p>学校教育教員養成課程(国語教育コース、社会科教育コース、数学教育コース、理科教育コース、音楽教育コース、美術教育コース、保健体育コース、技術・ものづくり教育コース、家政教育コース、英語教育コース、特別支援教育コース、幼児教育コース、学校教育コース(教育学専攻、教育心理学専攻))</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.mie-u.ac.jp/profile/policy/edu.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>教育学部は、学校現場における諸課題に対応できる実践的指導力を身につけた地域に貢献しうる教育人材を育成します。</p> <p>教育学部は、次のような資質・能力を備えた人に対して、厳格な評価基準に基づいて学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「感じる力」 教員に求められる使命や責任を理解し、幼児や児童生徒の心身の成長を支えることができる。 ・「考える力」 教育に関する専門的な知識や技能に基づいて学級等を経営するとともに、授業等を計画・実践し、さらなる改善策を考え示すことができる。また、教育をめぐる諸課題を把握し、解決策を考え示すことができる。 ・「コミュニケーション力」 子どもの多様性を認め、一人ひとりに配慮した教育を行うことができる。また、

同僚、保護者、地域の人々と協働しながら諸課題の解決に取り組むことができる。
・「生きる力」

社会人としての教養や公正な態度、柔軟な思考を身につけ、地域社会の動向を踏まえながら、責任ある行動をとることができる。また、自己研鑽の必要性を理解し、主体的・自律的に学び続ける意欲や態度を有している。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.mie-u.ac.jp/profile/policy/edu.html>)

(概要)

教育学部は、ディプロマ・ポリシーを実現するために、教員養成コア科目群を核とし、「学びのあしあと」による学修目標の設定と振り返りを行いながら、理論と実践の往還に基づいた体系的な教育課程を編成しています。4年間の学修を通して、複数(異校種・異教科)の免許を取得することができます。

1年次には、教養教育科目を中心に学び、学士(教育学)取得のための基礎的な知識や技能を習得します。具体的には、専門教育の入門授業と教育実地研究基礎の履修を通して、教員としての基礎的な関心、意欲、態度を涵養します。

2年次には、各コース・専攻で、取得する免許に関する専門科目の学修を行います。具体的には、教職に関する科目やコース専門に関する科目などで、教育をめぐる諸課題に対応するための理論や実践の学修を開始します。また、介護等体験や教育実習の事前実習を通して教員に求められる使命感や責任感を培います。

3年次には、引き続き理論や実践の学修を行います。そして、習得した理論や実践を、主免許・基礎免許にかかわる教育実習において具体化することにより、実践的指導力を高めます。あわせて、教員になるための意欲や態度も高めていきます。また、コース専門に関する科目の学修も深め、教育をめぐる諸課題とより深く向き合うとともに、論理的思考力を養います。

4年次には、これまでに修得した実践的指導力を、教育実地研究における関係機関・施設との協働を通してさらに高め、教員に必要なとされる使命感や責任感を確実に身につけます。また、副免許・特別支援学校免許取得にかかわる教育実習を行います。さらに、教職実践演習において4年間の学修の成果を振り返ることを通して、自律的、主体的に学び続ける教員像を確立します。更に、卒業研究を通して、教育をめぐる諸課題を捉える多様な視点や態度、及び問題解決に向けての論理的思考力を修得します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.mie-u.ac.jp/profile/policy/edu.html>)

(概要)

—このような人を求めます—

- 子どもと教育に関心を持ち、将来、教員になりたいと思っている人〔関心・意欲・態度〕
- 教育に関する専門的な知識・技能を学修する上で必要となる基礎学力を有している人〔知識・理解〕
- ものごとを多様な視点から捉え、論理的に考えようとする人〔思考・判断〕
- 自分の考えを的確に表現し、伝えようとする人〔技能・表現〕

学部等名 医学部
教育研究上の目的 (公表方法： http://www.medic.mie-u.ac.jp/admission/adpolicy.php)
(概要) 医学部 確固たる使命感と倫理観を持つ医療人を育成し、豊かな創造力と研究能力を養い、人類の健康と福祉の向上に努め、地域及び国際社会に貢献することを目的とする。 医学科 基礎医学、社会医学、臨床医学の分野で活躍する人材を養成していきます。すなわち、コミュニケーション能力に優れ、幅広い知識と質の高い技術を持って患者中心の医療を実践できる能力、自ら問題を発見し科学的根拠に基づいた思考によって問題を解決できる能力、あるいは地域及び国際社会における健康の増進、疾病の予防に寄与し、人類の保健、繁栄に貢献できる能力を養います。 看護学科 看護学科では、人間の誕生から死に至るまでの、様々な健康状態にある人達の健康と生活の質の向上にむけた支援ができるよう、Heart(こころ)・Head(専門知識)・Hand(専門技術)を伸ばす教育を通して、広く保健・医療に携わる看護職者を育成します。そして、倫理観と責任感を備え、協調性のある豊かな人間性と国際的感覚をもち、地域医療・保健に貢献できる看護職者の育成に努めます。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： http://www.mie-u.ac.jp/profile/policy/medic.html)
(概要) 医学科 医学科では、次の能力と資質を備えた人物に学位を授与する。 (1)「知識」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療実践に必要な医学・医療の知識を修得している。 ・ 社会人と医療人に求められる豊かな知識と教養を有している。 ・ 地域と国際社会で求められる保健・医療・福祉を理解している。 (2)「技能」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者の身体的、ならびに社会心理的状況を科学的、統合的に評価し、全人的医療を実践できる。 ・ 医学・医療の国際化に対応できる「語学力」「自己表現力」「多文化理解力」を有している。 ・ 医療チームに必要な「コミュニケーション力」「リーダーシップ」「協調性」を理解し、多職種連携によるチーム医療に参加することができる。 (3)「態度」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 豊かな人間性と高い倫理観を持って行動できる。 ・ 科学的根拠に基づいて考え、判断することができる。 ・ 地域医療の実践に必要な使命感と責任感を有している。 ・ 生涯を通して自らを高めていく態度と医科学の進歩を追求する研究心を持っている。 看護学科 <ol style="list-style-type: none"> 1. 人々がより健康にその人らしく生きるために、看護職として人の尊厳と生命を尊重して行動することができる。 2. 看護学の観点から人間を総合的に理解し、良質で安全な看護を実践するための基本的知識と技能を身につけている。 3. 科学的根拠を踏まえて看護に関する課題を発見し、論理的・批判的思考により課題を解決することができる。

4. 人々との相互関係を成立・発展させるために、豊かな感性を備えたコミュニケーション能力を身につけ、対話や討論の場において発揮することができる。
5. 保健医療福祉システムの中で看護の専門性を発揮し、多職種連携における役割を担うための基盤となるリーダーシップ・フォロワーシップを身につけている。
6. 国際社会や地域社会における健康問題や社会の変化などの動向を視野に入れながら、看護に求められる役割を見出すことができる。
7. 看護の課題を探究し、看護学の発展につながる研究的態度を身につけている。
8. 専門職として看護の質の向上を常に目指し、自己評価と他者評価をもとに看護実践を省察し、自立的に生涯学び続けようとする態度を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<http://www.mie-u.ac.jp/profile/policy/medic.html>)

(概要)

医学科

医学科では、学位授与の方針に掲げる目標を達成するために、教養教育科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、少人数共同学習、実習を適切に組み合わせた授業を実施する。その教育内容、教育方法・評価について、以下の方針を定める。

1 教育内容

- (1) 「教養教育（1-2年次）」：学生が豊かな人間性、高い倫理観、知的好奇心を涵養し、大学生としての適切な学習態度を修得できるよう、教養教育院が開講する多様な学問領域の授業の開講を奨励する。
- (2) 「初期医学教育（1-2年次）」：人々の健康問題や地域社会の保健医療課題に対する学生の理解を促進するため、附属病院、地域医療機関、地域コミュニティでの体験型実習を実施する。また、先進医療や医学研究を理解するための講義、専門教育科目の履修に必要な基盤的な知識を修得するための講義を開講する。
- (3) 「基礎医学・社会医学教育（2-3年次）」：学生が生命現象を分子、細胞、組織、器官、個体、社会レベルで学習するための講義と実習を行う。基礎医学領域を統合的に「分子生命体科学」（分子細胞生物学）、「生体の構造と機能」（解剖学・生理学・生化学・病理学）、「生体防御の分子基盤」（薬理学・分子病態学・免疫学・微生物学・医動物学）、「社会と医学」（公衆衛生学・衛生学・法医学）の4領域で構成する。また、系統解剖実習をはじめとする基礎医学実習では、からだの仕組みと働きを体系的に学びながら、医師に求められる倫理観や研究心を養成する。
- (4) 「問題基盤型チュートリアル教育（3-4年次）」：患者シナリオを用いた実践的な問題基盤型学習を推進する。学生の主体的な学習と少人数共同学習への支援（チュータータイム）、および基礎医学から臨床医学へと連動する講義により構成する。この授業では、医学知識の獲得だけにとどまらない、問題発見解決能力、科学的思考力、討論力、コミュニケーション力の養成を目指す。
- (5) 「研究室研修（3-4年次）」：学生は基礎医学、または臨床医学の研究活動に従事し、研究活動を通して継続的な個別指導を受ける。学生は科学的な観察力、分析力、批判的思考力を養成し、実験手法を修得することで研究遂行力を高める。
- (6) 「基本的臨床技能教育（4年次）」：学生は臨床実習で必要となる医療面接、基本的身体診察、基本的診療手技、臨床推論、診療録記載、症例プレゼンテーションの技術と態度を修得する。この授業では模擬患者や医療シミュレータを積極的に用いて、実践的な教育を行う。
- (7) 「診療参加型臨床実習（クリニカル・クラークシップ）（4-6年次）」：附属病院と地域医療機関での診療参加型臨床実習を全診療科目ローテーションにより行う。最終学年時には、附属病院、地域医療機関に加え、海外の医療機関をも含む選択型臨床実習（エレクトィブ）の機会を提供する。

2. 教育方法・評価

- (1) 医学科におけるすべての教育プログラムでは、アクティブ・ラーニングを推進する。事前事後学習を指導し、実践的な学習環境を提供する。成績評価では、客観的で公平性と透明性の高い評価方法を採用する。また、教育方法・評価に対して学生や地域のステークホルダーからのフィードバックを受ける。さらに、機関調査（IR）活動を通して医学教育全体の学習目標と評価方法との整合性を検証する。
- (2) 教養教育と初期医学教育では、講義と体験型実習を実施し、筆記試験、ポートフォリオやプレゼンテーションにより学習成果を評価する。
- (3) 基礎医学教育では、医学教育モデル・コア・カリキュラムに沿った講義と実習、自習支援を行うとともに、各教育研究分野の特色を活かした授業を展開する。学生の学習成果の評価についても授業内容を反映させた評価を実施する。
- (4) 問題基盤型チュートリアル教育では、専門委員会を中心に医学教育モデル・コア・カリキュラムに沿った統合的（基礎と臨床、内科系と外科系）な授業を実施する。自学自習の成果を示すポートフォリオと臓器別モジュール毎の筆記試験による評価に加え、少人数共同学習の場であるチュータータイムでのパフォーマンス評価（ピア評価・チューター評価）を行う。さらに全ての授業終了時には、共用試験実施機構によるコンピュータ支援学力試験（CBT）を実施し、臨床実習参加の可否判定を行う。
- (5) 研究室研修では、教員の指導の下に医学研究に参画する。この授業の評価では、英文による研究計画書の作成、研究発表会で研究成果の発表を必須要件とし、実習中の観察記録により評価を行う。
- (6) 基本的臨床技能教育では、共用試験実施機構から示される学習項目に沿って実習を行い、学生の臨床手技の修得を支援する。専門委員会を中心に臨床系教育研究分野の教員が指導を担当する。評価は、共用試験実施機構が実施する客観的臨床能力試験（OSCE）により行い、臨床実習参加の可否判定に用いる。
- (7) クリニカル・クラークシップでは、学生が医療チームの一員として診療に参加し、指導医、研修医、上級生からの指導を受ける。学生が参加する医行為については厚生労働省から示される基準に従う。専門委員会が、学生の実習状況を把握し、形成的評価を実施する。絶対的評価は、診療科ローテーション終了時の評価（観察記録、技能試験、ポートフォリオ、筆記試験など）、臨床実習終了時 OSCE（post-CC OSCE）、卒業試験により判定を行う。

看護学科

看護学科では、倫理観と豊かな人間性を備え、地域社会への貢献はもとより、国際的な視野に立って活動できる、人間的・専門的に高い資質を持った看護専門職を育成するために、以下の方針によるカリキュラムを編成しています。

- (1) 幅広い教養や国際的な視野を身につけるため、地域理解や国際理解、外国語教育等の科目を開講する。
- (2) 人体の構造と機能、健康・疾病・障害に関する基礎となる知識と、看護学の基盤となる理論や技術を学び、人間の尊厳への配慮や倫理観を育成するために基礎看護学の科目を開講する。
- (3) 人のライフサイクルや社会的ヘルスニーズ、地域特性などの多様な観点から人間を総合的に理解し、科学的根拠に基づいて個人の健康状態に応じた適切な看護実践をするために、母性・小児・成人・老年・精神・地域看護学の各専門領域の知識を学ぶ科目と、実践の場に適応する能力を身につけるための演習および臨地実習科目を開講する。
- (4) 国際的な視野で保健医療福祉システムをとらえ、多職種と連携する能力や看護

<p>実践力を高め、社会に貢献する基盤を養うために統合分野の科目を開講する。</p> <p>(5) 科学的・論理的な思考とともに、看護に関する課題を解決しようとする態度や責任感を醸成するために、少人数教育での看護学ゼミナールや看護研究を課す。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：http://www.medic.mie-u.ac.jp/admission/adpolicy.php)</p>
<p>(概要)</p> <p>医学部</p> <p>医学部における教育に関する方針は、「医療に求められる使命感、倫理観、臨床判断力・実践力と医学・看護学研究を推進する創造的研究力を培い、人類の健康と福祉に貢献する医療人を育成する」ことです。</p> <p>医学科</p> <p>—このような人を育てます—</p> <p>医学科では、基礎医学、社会医学、臨床医学の分野で活躍する人材を養成していきます。すなわち、コミュニケーション能力に優れ、幅広い知識と質の高い技術を持って患者中心の医療を実践できる能力、自ら問題を発見し科学的根拠に基づいた思考によって問題を解決できる能力、あるいは地域及び国際社会における健康の増進、疾病の予防に寄与し、人類の保健、繁栄に貢献できる能力を養います。</p> <p>—このような人を求めます—</p> <p>医学科では特に以下の人を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●医学の進歩と人類の健康の向上に対して高い関心を持っている。 ●入学後の修学に必要な学習能力と誠実な人間性を備えている。 ●困難に立ち向かう強さと人への優しさを備えている。 ●地域医療への貢献に対する意識を持っている。 <p>看護学科</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護職者を目指すために必要な基礎学力を備え、論理的に物事を考えられる人。 2 人の健康に関心が強く、看護の分野で社会に貢献する意志をもっている人。 3 探求心と自立心をもって、主体的・協働的に課題に取り組める人。 4 相手の立場を理解し、柔軟にものごとを考え、表現できる人。 5 国際的な視野をもち、地域の医療・保健の向上に貢献することを希望する人。

<p>学部等名 工学部</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：https://www.mie-u.ac.jp/disclosure/files/20171227_gakubunomokuteki.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>地域の活性化に貢献し、世界に通用する学問及び社会の進歩を支える、ものづくりに不可欠な技術の修得と、社会で活躍するための幅広い学識、工学的専門性、実践力や問題解決能力を有した人材を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.eng.mie-u.ac.jp/education/target/)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学に4年以上在学して所定の単位修得を充たし、以下の能力を備えている人に対して、卒業を認定して学位、学士(工学)を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多面的思考能力：幅広い教養とそれに基づく多面的思考能力を身につけている 2. 深い専門知識：専門技術者として必要な工学に関する幅広い専門知識を身につけている 3. 高度なコミュニケーション力：国内外で活躍する人材としてのコミュニケーション力を身につけている

4. デザイン能力・ものづくり能力：工学の専門知識を基にした課題解決手法の設計能力，また，専門知識に基づく“ものづくり”を行う実践能力を身につけている
5. 制約下での仕事の推進・統括力：制約下での仕事遂行のための計画能力，実施能力，および他者との協調性やプレゼンテーション能力を身につけている
6. 技術者倫理：技術者に必要な教養と倫理観を身につけている
7. 自主的継続的学習能力：工学に関する分野に関心を持ち，自発的，継続的に学習することができる

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.eng.mie-u.ac.jp/education/target/>)

(概要)

<教育内容>

工学の教育・研究を行っており，幅広い教養を修得するための教養教育科目と，工学に関連する分野の専門知識を修得するための専門教育科目が用意されています。

専門教育科目は，すべての教育・研究分野に共通に必要な基礎的専門知識を身につけるための授業や演習，実験（専門必修科目）と，身につけた基礎的知識に基づいてより高度な知識を得るための授業（専門選択科目）とからなり，それらが有機的に編成されています。専門選択科目は幅広い分野の科目から構成されており，自分の関心や将来のキャリアに合った授業を選択し，興味をもって学習することができるようにしています。

<教育方法>

社会で活躍できる実践力を身につけた専門的職業人や技術者となるため，講義・演習・実験・実習形式の授業に加え，1年次には，グループワーク，PBL，プレゼンテーション能力やコミュニケーション力の育成を図るための教育が用意されています。また，実践力や応用力を養成するため，低学年次から実験科目を継続的に実施します。

3年次には，インターンシップを通して，キャリアプランニングに役立つ教育や，技術者としての倫理観を養うが教育が用意されています。最終学年の4年次は卒業研究を行い，専門知識の応用力と実践力の向上を促す教育を行います。

<成績評価>

成績評価は，それぞれの科目に応じて，出席，レポート，期末試験などの試験によって総合的に行います。特に実験科目では，提出された実験レポートに対して図表を用いた記述や表現能力について評価します。

<カリキュラム評価>

毎年実施されている授業アンケートを基に適宜カリキュラムを見直ししたり，卒業生が就職した企業等関係者が来訪した際に卒業生の状況をヒアリングし，ディプロマ・ポリシーで示された能力が身につけているか等，卒業生の質について検証したりしています。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.eng.mie-u.ac.jp/education/target/>)

(概要)

—このような人を育てます—

工学部は，科学技術の分野における先端的，創造的な職業能力はもとより，自然，社会，文化等に対する深い見識を育むことを目指して，学生と教員のふれあいを重視した教育を行っています。特に演習，実験，卒業研究等，研究室での少人数教育を通して，世界に通用する学問及び社会の進歩を支えるものづくりに不可欠な技術の修得と，社会で活躍するための実践力や表現力を養います。

—このような人を求めます—

- 自然、社会、文化等に対して幅広い関心が有り、それらの基礎学力を持った人。
- 工学を理解するために必要な数学、理科に興味があり、それらを応用する能力と自主的に学ぶ意欲を持った人。
- 自分の考えを的確に表現し、論理的に伝えることができる人。
- 工学における問題解決の実践に情熱があり、社会に貢献しようという気概を持った人。
- 工学とその周辺分野に対する旺盛な好奇心をもち、真摯に問題を探求し続ける姿勢を持った人。

学部等名 生物資源学部
教育研究上の目的（公表方法： http://www.bio.mie-u.ac.jp/ ）
<p>（概要）</p> <p>生物資源学部</p> <p>生物資源に関する独創性及び専門性を兼ね備えた広い視野を持ち、地域に根ざしたグローバルな視点に立ち、自らの力で問題解決ができる知識及び能力を身につけた人材を育成し、自然との共存を図り、生物資源の適正な開発・利用・保全を追求し、地域及び国際社会に貢献することを目的とする。</p> <p>資源循環学科</p> <p>持続的な社会の基盤としての生物資源を環境に配慮した方法で循環的に利用するための、技術の開発や新しい社会のデザインをすることができる人材を育成することにより、調和のとれた循環型社会の構築に貢献することを目的とする。</p> <p>共生環境学科</p> <p>多様な生態系で成り立つ地球生命圏の環境・陸圏・海洋圏・太陽圏が連動する複雑な地球生態システムを現場レベルで理解し、数理的に紐解くことで、人類・生物と自然環境が共生できる生物生産システムと持続可能な社会の実現を目的とする。</p> <p>生物圏生命化学科</p> <p>多様な陸上・海洋生物の代謝・物質・機能を解析することを通して生命化学を理解し、医薬品・食品などの開発、未利用資源の利活用などに資する人材を育成することにより、人類の健康増進及び農林水産業の発展に貢献することを目的とする。</p> <p>海洋生物資源学科</p> <p>海洋生物系の理解並びにその諸問題に対応できる専門知識と技能を備えた人材を育成し、海洋における生物資源の持続可能な生産と生物多様性の保全に貢献することを目的とする。</p>
卒業の認定に関する方針
（公表方法： http://www.mie-u.ac.jp/profile/policy/bio.html ）
<p>（概要）</p> <p>生物資源学部は、地域に根ざしたグローバルな視点に立ち、自然との共存を図り、生物資源の適正な開発・利用と保全を追求するための基礎的・応用的な科学技術に関する教育・研究成果を生み出すことを目指しています。幅広い講義や実験・実習を通し、独創性と専門性を兼ね備え、自らの力で問題解決ができる知識と能力を身につけた人材の育成を目標に掲げ、以下の能力を総合的に備えている人に学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 幅広い教養と倫理観、国際感覚を身につけ、豊かな人間性を有している。 (2) 生命、環境、食料、健康等に関する生物資源学の基本的な知識と技術、経験を有している。 (3) 科学的で論理的な思考を展開することができ、計画的に問題の解決に取り組むことができる。 (4) 豊かなコミュニケーション能力を持ち、他者と協力して行動することができる。

(5) 社会の変化に柔軟かつ自律的に対応し、発展的に生きていくことができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： http://www.mie-u.ac.jp/profile/policy/bio.html)
(概要) 生物資源学部は、学士としての基盤能力と専門能力を総合的に備えている人材を養成するため、以下の方針に基づいたカリキュラムを編成し、実施します。 (1) 幅広い教養、国際理解の素養を身につけるため、外国語科目、人文社会科目を開設する。豊かな人間性を育むため、倫理および健康に関する科目も含める。 (2) 生命、環境、食料、健康等に関する生物資源学の基礎知識と技術を身につけるため、理系基礎科目と専門基礎科目および専門応用科目およびそれらを総合的に学ぶ実験実習・演習を開設する。 (3) 科学的・論理的な思考を展開することや、計画的に問題解決に取り組む姿勢を養うため、フィールドを活用する実験実習や卒業研究を課す。 (4) コミュニケーション能力を高め、他者と協力してプロジェクトを推し進める能力を身につけるため、研究セミナー、卒業研究を課し、得られた成果を発表・討論する機会を設ける。 (5) 社会の変化に柔軟に対応し、自律的・発展的に行動することができるように、総合的な演習科目、学生参加型の授業やセミナー、PBL 授業などを通して、知識と経験の融合を図る。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法： http://www.mie-u.ac.jp/profile/policy/bio.html)
(概要) ーこのような人を育てますー 生物資源学部では、地域に根ざしたグローバルな視点に立ち、自然との共存を図り、生物資源の適正な開発・利用と保全を追求するための基礎的・応用的な科学技術に関する教育・研究成果を生み出すことを目指しています。そのために、生物資源に関連のある生物学、化学、物理学、社会科学、情報科学など幅広い講義や実験・実習を通し、独創性と専門性を兼ね備え、広い視野を持ち、自らの力で問題解決ができる知識と能力を身につけ、国際的にも活躍できる人材の育成を目標にしています。 ーこのような人を求めますー ● 自然を愛し、生物資源の適正な開発・利用と保全に関心のある人。 ● 自然科学に関心を持ち、その基礎的学力のある人。 ● 自ら行動し、生物資源に関する問題の解決能力を身につける意欲のある人。 ● 幅広い学力と、基礎的な語学能力を持ち、さらに国際的に通用する基礎能力及びコミュニケーション力を身につける意欲のある人。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： 学校教育法施行規則第 172 条の 2 に基づく教育情報の公開 http://www.mie-u.ac.jp/disclosure/p172.html
組織図 http://www.mie-u.ac.jp/report/pdf/miedaigaiyo2018_Japan_web_5-10.pdf
学部・学科・課程等の名称 http://www.mie-u.ac.jp/report/pdf/miedaigaiyo2018_Japan_web_11-14.pdf
教育研究上の基本組織の概要 人文学部・人文社会科学研究科 http://www.human.mie-u.ac.jp/ 教育学部・教育学研究科 http://www.edu.mie-u.ac.jp/

医学部・医学系研究科	http://www.medic.mie-u.ac.jp/
工学部・工学研究科	http://www.eng.mie-u.ac.jp/
生物資源学部・生物資源学研究科	http://www.bio.mie-u.ac.jp/
地域イノベーション学研究科	http://www.mie-u.ac.jp/innovation/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	5人	—					5人
人文学部	—	38人	19人	0人	1人	0人	58人
教育学部	—	45人	21人	2人	0人	0人	68人
医学部		58人	31人	20人	63人	0人	172人
工学部		35人	43人	2人	18人	0人	98人
生物資源学部		48人	42人	2人	14人	0人	106人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
2人		565人					567人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： http://kyoin.mie-u.ac.jp/402_KY0IN_Search.aspx					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人文学部	245人	258人	105.3%	1,040人	1,148人	110.4%	30人	25人
教育学部	200人	200人	100.0%	800人	831人	103.9%	-人	-人
医学部	205人	205人	100.0%	1,090人	1,081人	99.2%	10人	0人
工学部	400人	400人	100.0%	1,660人	1,757人	105.8%	30人	40人
生物資源学部	260人	272人	104.6%	1,060人	1,111人	104.8%	10人	4人
合計	1,310人	1,335人	101.9%	5,650人	5,928人	104.9%	80人	69人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人文学部	281人 (100%)	6人 (2.1%)	255人 (9.1%)	20人 (7.1%)
教育学部	198人 (100%)	3人 (1.5%)	189人 (95.5%)	6人 (3.0%)
医学部医学科	127人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	127人 (100%)
医学部看護学科	82人 (100%)	1人 (1.2%)	80人 (97.6%)	1人 (1.2%)
工学部	422人 (100%)	244人 (57.8%)	169人 (40.0%)	9人 (2.1%)
生物資源学部	268人 (100%)	91人 (34.0%)	169人 (63.1%)	8人 (29.9%)
合計	1,378人 (100%)	345人 (25.0%)	862人 (62.6%)	171人 (12.4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 以下のリンク先にて公表している。 https://www.mie-u.ac.jp/life/career/students/data.html				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
人文学部	267人 (100%)	226人 (84.6%)	38人 (14.2%)	3人 (1.1%)	0人 (0%)
教育学部	208人 (100%)	194人 (93.3%)	9人 (4.3%)	5人 (2.4%)	0人 (0%)
医学部	206人 (100%)	197人 (92.2%)	7人 (6.8%)	2人 (1%)	0人 (0%)
工学部	415人 (100%)	358人 (86.3%)	42人 (10.1%)	15人 (3.6%)	0人 (0%)
生物資源学部	274人 (100%)	254人 (92.7%)	11人 (4.0%)	9人 (3.2%)	0人 (0%)
合計	1,370人 (100%)	1,229人 (89.7%)	107人 (7.8%)	34人 (2.5%)	0人 (0%)
(備考) 留学等による留年が多い。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>シラバスの中では、各授業科目の到達目標、授業の内容、授業計画及び評価方法を示し、毎年3月下旬頃に次年度のシラバスをホームページ上で掲載している。</p> <p>シラバスの作成にあたっては、受講生の視点に立って、検討すべき内容や留意点を「三重大学ウェブシラバス作成の手引き」にまとめ、この手引きに基づいて授業の目的、到達目標、成績評価等に一貫性と整合性を保つと共に、全学で統一したルールを定めている。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
シラバスにおいて、評価方法を示すと共に、成績評価ガイドラインや成績評価に対する評価ガイドライン等各種成績評価に係る規則等を定めており、大学教育としての実質化及び水準の確保に努めている。				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
人文学部	文化学科	128 単位	有	52 単位
	法律経済学科	128 単位	有	52 単位
教育学部	学校教育教員養成課程	130 単位	有	52 単位
医学部	医学科	210 単位	有	52 単位
	看護学科	128 単位	有	52 単位
工学部 ※総合工学科は、各コースにより異なる。 () については、総合工学コースから配属した場合の卒業に必要な単位数	総合工学科			
	(機械工学コース)	126(129) 単位	有	52 単位
	(電気電子工学コース)	128(128) 単位	有	52 単位
	(応用化学コース)	124(127) 単位	有	52 単位
	(建築学コース)	127(128) 単位	有	52 単位
	(情報工学コース)	125(126) 単位	有	52 単位
	機械工学科	124 単位	有	52 単位
	電気電子工学科	128 単位	有	52 単位
	分子素材工学科	127 単位	有	52 単位
	建築学科	125.5 単位	有	52 単位
	情報工学学科	125 単位	有	52 単位
	物理工学科	124 単位	有	52 単位
生物資源学部	資源循環学科	125 単位	有	52 単位
	共生環境学科	125 単位	有	52 単位
	生物圏生命化学科	125 単位	有	52 単位
	海洋生物資源学科	125 単位	有	52 単位
	生物圏生命科学科	125 単位	有	52 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)	医学部看護学科において、成績優秀学生の表彰や保健師コース・助産師コースのコース分けに活用している。 公表方法： http://www.mie-u.ac.jp/students/classwork/Seiseki-GPA.htm			
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法：			

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<http://www.mie-u.ac.jp/disclosure/p172.html>

7. 校地、校舎の施設及び設備その他の教育研究環境に関すること

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
人文学部	文化学科	535,800 円	282,000 円	0 円	
	法律経済 学科	535,800 円	282,000 円	0 円	
教育学部	学校教育 教員養成 課程	535,800 円	282,000 円	0 円	
医学部	医学科	535,800 円	282,000 円	0 円	
	看護学科	535,800 円	282,000 円	0 円	
工学部	総合工学 科	535,800 円	282,000 円	0 円	
生物資源 学部	資源循環 学科	535,800 円	282,000 円	0 円	
	共生環境 学科	535,800 円	282,000 円	0 円	
	生物圏生 命化学科	535,800 円	282,000 円	0 円	
	海洋生物 資源学科	535,800 円	282,000 円	0 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>学生総合支援機構 本学学生の修学、就職、生活及び健康等への支援体制を充実し、快適な学生生活の実現を図ることを目的として設置しており、修学支援センター、キャリアセンター、学生活動センター、学生相談センター（学生なんでも相談室）、障がい学生支援センターの5つのセンターを置き、支援している。</p> <p>修学支援センター 奨学金や入学料及び授業料減免などの経済的支援、学生寮等の居住に関する支援などを行っている。</p> <p>学生活動センター 課外活動に関する支援のほか、学生による学生支援活動であるピアサポーター学生委員会やACS学生委員会（障がいに関する学生委員会）の活動を支援している。</p> <p>学生相談センター（学生なんでも相談室） 専任の教員、インターカー及び非常勤カウンセラーを配置し、学業を含むあらゆる悩みごとについて、学生が常時カウンセリングを受けることができる体制をとっている。</p> <p>障がい学生支援センター 専任の教員を配置し、障がいを持つ学生の学修面や生活面のサポートを行っており、悩みごとが生じた際の相談窓口ともなっている。</p> <p>人文学部 毎期ごとに成績通知を指導教員から行い、必要に応じ履修指導を行っている。また、学務担当においても履修相談に応じている。</p> <p>教育学部 学生一人ひとりが学んだことを積み重ね、それを振り返ることを大切にしたいという</p>
--

意図から、本学部では、「三重大学キャリア支援システム」を活用した「振返記録」を入力させている。これは、従来使用していた紙媒体の「学びのあしあと」に替わるもので、入学から卒業までのキャリア形成の履歴をオンライン上に作成するものである。「学びのあしあと」と同様に、目的や課題、自己評価などをオンライン上にさせている。本学部では、この振返記録」を活用した学修支援システムを構築している。このシステムでは、「振返記録」を通して、学生のより良い育成に向けた、教員と連携支援室による教育支援の実現を試みている。本学部は、「振返記録」によって、教師としての一步を踏み出す前の卒業時に、教師としての自分の課題を明らかにし、力量形成のためのひとつの手立てとなることを期待している。

医学部

学生相談センター（学生なんでも相談室）医学部分室において、医学部教員5名（うち、臨床心理士1名）、メンタルヘルスアドバイザー1名により、医学部学生に対し、面談等を通じ、修学上・生活上の支援や心理的支援、進路に関する相談等の業務を行っている。

工学部

障がい学生支援センター、各学年のクラス担任、指導教員及び学務担当が当該学生と面談・希望を聴取し、希望する支援の内容を可能な限り実現できるようにしている。

生物資源学部

入学時のオリエンテーション時に、修学及び生活面の指導を行っている。また就学カウンセラーを各教育コースに設置し、「生物資源活動タイム」内で定期的な指導を行っている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

（概要）

学生総合支援機構

キャリアセンター

三重大学キャリア教育方針に基づき、学生が低学年から主体的に進路選択ができるよう、全学的な立場から、キャリア教育、インターンシップおよび就職活動支援等を推進している。

人文学部

毎年12月に就職が内定した4年生が3年生向けに体験談を話したり個別相談を受けるなどのガイダンスを実施している。

また、その際「就職活動の手引き」（冊子体）を配付している。他にも、人文学部主催企業説明会等を実施している。

教育学部

教員採用試験を受験する学生を対象に、3年次後期から教員採用試験のためのセミナー（教採セミナー）を開催している。教採セミナーでは、学内模試や面接対策等を通して、筆記・論文試験、面接、模擬授業等の対策を行っている。学校現場経験者を中心とした専任スタッフが、教員採用試験の日まで手厚いサポートを行っている。また、学生一人一人に「就職のカルテ」を作成し、指導教員等が1年次からの面談記録等を取り進路指導に生かしている。

医学部

学生相談センター（学生なんでも相談室）医学部分室において、医学部教員5名（うち、臨床心理士1名）、メンタルヘルスアドバイザー1名により、医学部学生に対し、面談等を通じ、修学上・生活上の支援や心理的支援、進路に関する相談等の業務を行っている。

工学部

4年生で配属される研究室の指導教員が中心となり、支援を行っている。

生物資源学部

各教育コースに就学カウンセラーを設置し、「生物資源活動タイム」内で定期的なガ

イダンスを行っている。また、学生委員会によるOB・OGの卒業生体験談や、インターンシップ・就職支援委員会による就職説明会等を開催している。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

保健管理センター

学生の健康保持，増進を図ることを目的として，医師，保健師，看護師，心理カウンセラーを配置し，専門的な立場から心身に係る相談に応じている。

学生総合支援機構

学生相談センター（学生なんでも相談室），障がい学生支援センター

学業や人間関係等の悩みごとの相談窓口として設置されており，適宜保健管理センターと連携をとって学生支援を行っている。

人文学部

心身に障がいのある学生については，障がい学生支援センターを連携し，必要に応じ保護者を交えて面談を実施している。

また，講義における配慮が必要な場合は，配慮依頼事項を作成し，講義担当教員に通知している。

教育学部

指導教員等が相談に応じており，状況によっては障がい学生支援センターと連携し支援を実施している。

医学部

学生総合センター（学生なんでも相談室）医学部分室において，医学部教員5名（うち，臨床心理士1名），メンタルヘルスアドバイザー1名により，医学部学生に対し，面談等を通じ，修学上・生活上の支援や心理的支援，進路に関する相談等の業務を行っている。

工学部

各学年のクラス担任が相談に応じており，場合によっては学生相談センター（学生なんでも相談室）へ相談するよう勧めている。

生物資源学部

各教育コースに就学カウンセラーを設置している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：

- ・点検・評価情報 <http://www.mie-u.ac.jp/profile/check/>
- ・教育情報の公表 <http://www.mie-u.ac.jp/disclosure/p172.html>
- ・工学研究科シーズ集・工学研究科・工学部案内・工学研究科
<http://www.eng.mie-u.ac.jp/>
- ・生物資源学部 <http://www.bio.mie-u.ac.jp/>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F124110107141
学校名	三重大学
設置者名	国立大学法人三重大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		447人	433人	472人
内訳	第Ⅰ区分	240人	237人	
	第Ⅱ区分	122人	123人	
	第Ⅲ区分	85人	73人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				472人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準時間数の5割以下)	-		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	0人		
計	-		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	0人	前半期	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準時間数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	86人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	86人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。